

令和4年度上半期 地域活動まとめ

・地域活動全体として、コロナ禍により活動ができず、地域をつなぎ直す必要があるとの認識が強い

	各地区の動き	地域住民の声	地区担当ワーカーからみた課題と今後の展望
精道地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 町ごとの活動が少しずつ再開している。 地域での活動に活かすため、理学療法士によるフレイル予防の勉強会を開催した。 コミスクの夏祭りが7月にコロナ後初めて開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防の勉強会を実施したので、高齢者に伝えていく必要があると思った。 民生委員、福祉推進委員、地区福祉委員会のあり方を共有する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 改選を機に、あらためて民生委員、福祉推進委員の役割の確認を行うとともに、精道地区福祉委員会のあり方を考える。
山手地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地区福祉委員会の中で社協だよりの配布や地区だよりの発行など、地区活動の情報発信等に課題があるとの意見があり、意見交換を行った。 大原町で民間企業が子ども食堂をテイクアウト形式で開始（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者訪問は孤立しがちな地域性もあるので必要なことだと思う。 役員のなり手がいない、自治会に加入しないなど自治会が存亡の危機 今期の3年間福祉推進委員としての活動があまりできなかった。 福祉推進委員をしているが、困っている人がどこにいるかわからない。 地域の高齢者が入院した情報がわからなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 山手地区として必要な活動を検討したいとの意見があるので、検討する必要がある。 民生委員、福祉推進委員が把握している対象者の情報共有について、専門職との関係づくりをする必要がある。
宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地区福祉委員会で、社協の地域福祉推進計画やヤングケアラーの勉強会を実施した。その内容を地区福祉だよりに掲載し、住民に周知する予定。 浜町で、空き家を活用した「結カフェ」を浜町の民生委員、福祉推進委員が実施（月2回） 6月の生きがいデイサービス「クロマティックハーモニカ」は男性の参加も多く盛況だった。 若宮サロンが再開した。（月1回）コロナ前は自治会と合同だったが、地区委員会主催で再開。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、福祉推進委員だけでなく、地域のいろいろな方と、「こんな町にしたい！」を考えていきたい。 ヤングケアラーの勉強会を実施してみて、継続的に考えたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ヤングケアラーの勉強会をきっかけとした、次の展開を検討する。 地域の中で、「こんな町にしたい！」を考える場を作ることを地区福祉委員会を中心に実施する。
岩園地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地域の活動に活かすため、理学療法士によるフレイル予防の勉強会を開催 コロナ後初の「高齢者のつどい」を企画をするが、感染状況拡大により延期に、下半期に開催予定 コロナ後初の地蔵盆を開催し、コロナ前よりも多くの参加があった。（親王塚町） 翠ヶ丘町に「プラスワン岩園ひまわり」が開所した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の企画をするも延期せざるを得なくなり、残念だった。 フレイル予防講座の内容を知り合いに話している。 フレイル予防講座で学んだことを生きがいデイサービスなどで広めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体での活動ができなかったことにより、地区福祉委員会で「話し合う」ことがほとんどなかった。地区全体のことだけでなく、それぞれの町ごと、委員ごとの普段の活動からの課題について、「話し合う」地区福祉委員会にする。
朝日ヶ丘地区	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、福祉推進委員が朝日ヶ丘コミスク主催の読書会に参加し、同時に下校時の見まもりを実施することで、子どもたちに顔を覚えてもらえるように取り組んでいる。 コミスク夏祭りがコロナ後初の開催の予定だったが、第7波のため中止 コロナ後初の高齢者の集いを企画中 朝日ヶ丘小学校5年生を対象に福祉学習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子どもと顔見知りになることができ、見守りや声をかけやすい環境になった。 	<ul style="list-style-type: none"> もともと、コミスクと地区福祉委員会の連携はできている地域であるが、読書会や下校時の見守りによる、地域の子どもと顔見知りになったことで、民生委員、福祉推進委員としてできることを考えていく。
三条地区	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体で高齢者訪問を実施 各町に設置している車いすの点検を兼ねて、車いすの使用法の講習を行った。 コミスク夏の夜のつどいがコロナ後初の開催予定だったが、第7波のため中止 コロナ後初の高齢者の集いを各町ごとに9月～10月にかけて実施 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問により対象者の入院が把握できた。 訪問を望まない人がいる。 訪問から地域包括につないだケースがあった。 訪問の大切さ、必要性を改めて実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「訪問活動を積極的に行う」ことを目標に活動してきたが、訪問により気づいた“訪問を望まない人”訪問から地域包括につないだ人”と地域でどう関わるかを話し合う場を作りたい。
打出浜地区	<ul style="list-style-type: none"> 10月～11月に各町で高齢者訪問を実施予定 休止していた子ども会が復活した（春日町） 介護予防を中心とした「集い場 縁」が立ち上がる（春日町） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方から、「つどいはしないの？」との声がある。 地区委員会で研修をもっとしたい。 子どもとの関わりがほとんどないとの声がある。 子ども会活動が復活するなど、少しずつ地域でのつながりを取り戻す動きが出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動が復活しつつある中、経験の長い民生委員が数人定年を迎えるため、改選後の打出浜地区福祉委員会のあり方を話し合う必要がある。 福祉学習のお手伝い等を通して、委員と子ども達が関わりが持てる様、呼びかけた。
潮見地区	<ul style="list-style-type: none"> 9月に高齢者のつどいを実施 地区福祉委員会内でコープこうべの協力によりローリングストック講座、ボランティアグループの協力により車いす講座を実施 毎回の委員会で小地域福祉活動の手引書、気づきのポイントチェックシートの内容確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者の“自助”とはどのようなものだろうか。 夕方5時半を過ぎているが、安否の気になる高齢者世帯に気づいた場合、どこに連絡をすればよいか気づきのポイントチェックシートに載せてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 改選を機に、あらためて民生委員、福祉推進委員の役割の確認を行うとともに、潮見地区福祉委員会のあり方を考える。
浜風地区	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体で高齢者訪問を実施 4月に高齢者のつどいを実施 福祉マップ、リストの作成について、地区福祉委員会内で協議した。 5月の生きがいデイサービスでいきいき100歳体操を初めて行い、男性の参加が初めてあった。 4月に地域食堂「またあした食堂」が立ち上がった。地区福祉委員会からも多くのメンバーがボランティアとして参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちはどんな風に見まもりをしたいかを話し合うべきではないか。 自立を望んで生活している人に、どこまで介入すればよいか。 地区全体の活動だけではなく、身近な町ごとの活動も必要ではないか。 小学校の福祉学習に参加したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら活発に意見を表出する力のある委員会である。地域の見まもりをどのように行うかについて、今後も委員の声を拾い上げ、前向きな議論を交わせるよう支援したい。 3町合同で行うことと、町ごとなどより小さな単位で行うことについて、バランスを取りながら進める。